

●けんちくつれづれ草 第208回
旧加悦町役場庁舎について

●事業案内

令和6年度 既存住宅状況調査技術者講習

(一社)京都府建築士会 青年部会創立50周年記念事業
建築家セミナー2025 香山壽夫

令和6年度 監理技術者講習

令和6年度 国内研修旅行 〈愛知〉

●お知らせ

一級・二級・木造建築士 定期講習

令和6年度 専攻建築士制度 登録申請の受付開始

●新年挨拶 会長・京都府知事・京都市長・支部長・青年部長・女性部長

●特集 めくるめくシブイ建築世界 2

アムステルダム、プリンストンそしてベルリンへ

●報告

令和4年度 全国まちづくり委員長会議

第2回 すべての建築士のための総合研修

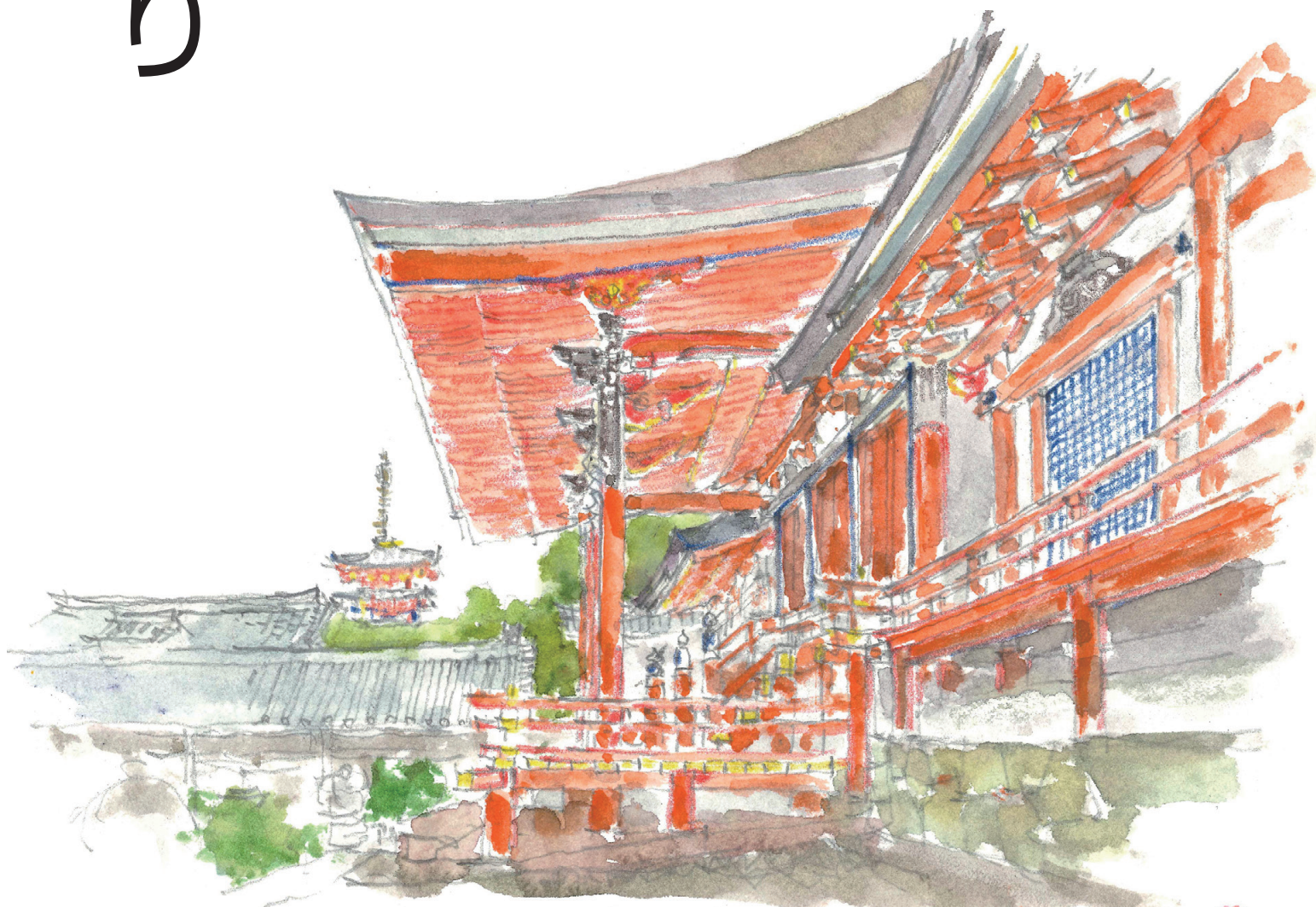
建築まちあるきガイドツアー

藤井厚二・八木邸、枚方宿の町並みと鍵屋資料館 見学会

●支部だより 東舞鶴

●本のストラクチュア 第9回 『青華—伊東豊雄との対話』

●表紙のことは 『薬師寺 休ヶ岡八幡宮』

京都
だより
Kyoto Dayori

薬師寺休ヶ岡八幡宮 24.8.24



つれづれ
けんちく
草

京都府与謝郡与謝野町加悦（加悦重要伝統的建造物群保存地区）の玄関口に位置する歴史的建造物です。数年にわたり修理―復原―活用のお手伝いを公私にわたり協力させていただいたことについてお話しします。

旧加悦町役場庁舎は1927（昭和2）年に発生した北丹後地震により倒壊し1929（昭和4）年に建て替えられ、1997（平成9）年京都府指定有形文化財に指定された。設計者は、宮津出身の建築家、今林彦太郎（大林組の初代建設部長）。建築面積275・47㎡、延床面積532・20㎡。

「令和の大修理」

「旧加悦町役場庁舎耐震改修検討委員会」建築史・意匠、耐震工学、建築構造・材料、木質科学の立命館大学、鈴木祥之教授を中心に各分野の専門家14人で構成された。幾度となる調査実験が行われ、微動計測、地質調査、金沢工業大学にて耐力測定実験、外壁の復元力特性測定実験、既存基礎立上強度試験などが行なわれ、耐震補強・改修方法が決定された。建築審査会の審査を得、構造は第三者機関の審査を得、復原については文化財保護課の同意を得た。これらを基に実施設計を行い、着工に至る。

1 外壁

当初は単なるラスモル下地と見られていた。厚さ40mm鉄網入り、成分はモルタルに珪藻土混入。下地は松板材斜め張り。建設当時の文献によれば「鉄網コンクリート」と呼ばれ、木摺斜張下地と相まって構造耐力要素として非常に期待でき、木造との相

性が良いことが判明。

2 基礎

当初は単なるコンクリート製布基礎と見られていた。コンクリートは底盤のみで台形の立ち上がりについては、当時の文献によれば「石灰コンクリート」と呼ばれ、低強度ではあるが木造上部構造を柔軟に支える相性の良い基礎であることが判明。

3 2階梁

120×550 2連梁でスパン毎に110×380の水平筋違いを配し、ほぞ付根太にて2連梁上端を拘束する。これにより約12mの無柱空間としている。

当時の庁舎建築としては優れた耐震性能を持つことが立証されたが現行基準と同レベルの耐震性能を要求されたため、1階にたわみ抑制柱と壁を設け、一部の内壁を荒壁パネル張りとした。

「保存復原―耐震補強―利活用」

1 基礎

石灰コンクリート基礎の内外部に鉄筋コンクリートで挟み込む工法とし、上部構造の荷重は内部に新設した鉄筋コンクリート造べた基礎に負担させた。

2 外壁

内部成分が不明であり、混入された鉄網の状況が不明であるため、極力現状保存とした。

3 窓

現状は欄間付上下窓であったが、既存調査により欄間付両開窓と判明したため両開窓で復原した。

4 利活用

ちりめん街道の玄関として、人々の交流

が生まれる観光・交流の場としてリスタート。

「まとめ」

多くの方々の様々な調査・分析と復原修理を目の当たりにし、先人の崇高な建築と最新技術に触れ、非常に貴重な体験ができたと思います。みなさんも是非「ちりめん街道」に來られ「旧加悦町役場庁舎」をご覧くださいと思います。



外観東面



議場

旧加悦町役場庁舎について

Event 2025 Calendar

2 ← 1

 Exhibition
Seminar
Symposium
Event

1

January

- Mon **6** 事務局仕事始め
- Tue **7** 新年交礼会
- Tue **14** 常任理事会
- Tue **21** 七彩の会
- Fri **24** 支部長会議・理事会

2

February

- Mon **3** 常任理事会
- Sun **9** 女性部会創設40周年記念事業
- Thu **13** 建築士定期講習(京都市)
- Tue **18** 七彩の会
- Thu **20** 既存住宅状況調査技術者講習(更新)

 ※注意：京都建設会館の駐車場は
利用できません

参加申込

 電話・FAX、またはホームページから
お申し込みください。事業内容の詳細
は、ホームページをご確認ください。

 (一社)京都府建築士会事務局
TEL075-211-2857 FAX075-255-6077
https://www.kyotofu-kenchikushikai.jp
E-mail:contact@kyoto-kenchikushikai.jp

お知らせ

一級／二級／木造建築士 定期講習

令和6年度 第4期

建築士事務所に所属する建築士の方は3年に1度の受講が義務付けられています。

- 受付期間：受付中
※定員になり次第受付終了
- 講習日・会場・定員：
2月13日(木)
京都テルサ 100名
【会場コード 5B-03】

令和6年度より、申込手続きは原則として「インターネットによる」受付に変更になりました。詳細・お申込みについては(一社)京都府建築士会のホームページからご確認ください。

令和6年度 既存住宅状況調査技術者講習 事業委員会

【更新】

- CPD 2単位
- 日時 2月20日(木)
午後1時20分～4時50分
(受付：午後0時50分～)
- 会場 京都建設会館別館 会議室
(京都市)
- 定員 20名
- 申込
(公社)日本建築士会連合会HPより
お申し込みください。
- 内容
国土交通省の既存住宅状況調査技術者講習制度の講習を修了した、既存住宅状況調査技術者が対象となります。資格を取得した年度の3年後の年度末までが有効期間となります。

お知らせ

「京都だより」特集まとめ

(一社)京都府建築士会のホームページで、「京都だより」の特集をまとめたPDFをご覧ください。

(一社)京都府建築士会 青年部会 創立50周年記念事業 建築家セミナー 2025 香山壽夫 青年部会 研修・セミナー担当会

- CPD 2単位
- 日時 3月1日(土)
- 会場 ホテルグランヴィア京都
5階 古今の間
京都市下京区烏丸通塩小路下ル
(JR京都駅直結)
- 講師 香山建築研究所 香山壽夫氏
- 参加費 無料
- 定員 200名(要事前申込／先着順)
- 申込締切 2月16日(日)
- 内容
建築デザインのみならず、都市計画や文化施設の設計・改修、教育活動まで幅広く活動されている香山壽夫氏にご講演いただきます。
京都における実績も数多くあり、公共建築賞・京都建築賞における特別賞など高い評価を得ておられる香山氏の経験、知識、考え方を学びます。

令和6年度 監理技術者講習 事業委員会

- CPD 6単位
- 日時 第4回 3月11日(火)
受付開始／午前9時
運営説明／午前9時20分～9時30分
講習／午前9時30分～午後5時10分
- 会場 京都建設会館別館 会議室
- 定員 20名(定員になり次第締切)
- 申込 (公社)日本建築士会連合会HPよりお申し込みください。

令和6年度 国内研修旅行～愛知～ 青年部会 研修・セミナー担当会

- CPD 申請予定
- 日時 4月19日(土)～20日(日)
- 見学先 愛知県内
- 参加費 会員／28,000円
一般／33,000円
- 定員 35名(定員になり次第締切)
- 申込締切 3月31日(月)
- 内容
初日は、アントニン・レーモンが手掛けた南山大学と神言神学院の見学を行います。2日目は、谷口吉生設計による名作、豊田市美術館に加え、通常は公開されていない施設も巡る予定です。
1日目：
南山大学、神言神学院、豊田講堂、他(名古屋市内に宿泊)
2日目：
リニモテラス、逢妻交流館、
豊田市美術館、豊田市自然観察の森
※詳しくはチラシをご確認ください。

2025年 新年のご挨拶

一般社団法人京都府建築士会 会長

山領 正



あけましておめでとうございます。皆様におかれましては新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年の干支は「巳」です。わが国では白蛇が日本各地で天候神や豊穡神として古くから信仰されて良い象徴と捉えられており、素晴らしい年になりますようお願いしております。

さて昨年は、能登半島地方を襲った地震や水害、土砂災害の大災害により、多くの方々が困難な状況に直面されました。自然災害に対して無力さを知り、復旧復興への取り組みの大切さを学びました。そして復旧、復興に向けて、応急危険度判定、建物被災鑑定など私たち建築士も一丸となって取り組みが必要とされています。

私たちは地域の皆様が安心して暮らせる環境を再構築するため、市町村と連携して地域の災害に対して引き続き活動していきます。

私たちは法律社会の中で業務を行って

おり、私たちを取り巻く建築基準法や建築士法の改正については、最近の動向や目的を考慮することが重要でこれらの法律の改正は、主に以下のような目的があります。

「1」安全性の向上

地震や火災などの災害に対する建物の耐久性を高めるための基準を強化すること。

「2」環境への配慮

持続可能な建築を促進するために、省エネや再生可能エネルギーの利用を奨励する規定を導入すること。

「3」建築士の専門性向上

建築士法の改正により、建築士の資格取得や継続教育の要件を見直し、専門性を高めること。

「4」手続きの簡素化

建築許可や確認申請の手続きを効率化し、建築プロジェクトの円滑な進行を図ること。

（二社）京都府建築士会では具体的な

改正内容や業務に必要な情報を、会員の皆様にわかりやすく正確にお伝えする為に勉強会を始めとする情報提供を引き続き実施して参ります。

そして、私の目指す新年の目標は、

「1」会員の高齢化が進むなかで、新規会員向けのオンラインやセミナーの開催、SNSやウェブサイトの活用により、建築士会入会のメリットや活動を広く周知することを目指します。

「2」スキルアップ事業は、定期的な研修やワークショップを積極的に実施し、最新の技術やトレンドを学ぶ機会を提供し、他の専門家とのコラボレーションによる多様な視点を取り入れた講座やセミナーの企画を目指します。

「3」地域貢献活動は、地元の学校や地域団体との連携を強化し、建築に関する教育やワークショップを実施して地域のイベントやプロジェクトにも参加し、建築士の知識や技術を活かして貢献します。そして引き続き「まちづくり、災害

支援、空き家対策、住宅相談」を府内市町村と連携して空き家の調査や活用を建築士の立場でより一層活動を目指します。

「4」次世代を担う青年部会や女性部会の充実した事業を応援すると同時に、役員の育成を目指します。

これらの活動を通じて、会員のネットワークを広げ、地域社会にも良い影響を与えることが期待されます。興味のある具体的な活動について教えていただければ実行に向けて検討致します。

最後になりましたが、

「つなぐ・その先は∞（無限）」

～ 会員 ⇄ 情報 ⇄ 地域

⇄ 士会 ⇄ 次世代と

（二社）京都府建築士会を会長方針として、会員・地域・行政・次世代と「つなぐ」取り組みを、精一杯して参りますので、引き続きご支援ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

京都からいのち輝く未来を切り拓く

京都府知事

西脇隆俊



明けましておめでとうございます。府民の皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、元日に能登半島地震が発生し、8月には初めて南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表されました。改めて「危機管理」がいかに行政における根幹的な役割であるか、ということを感じた一年であり、新しく整備した常設の危機管理センターを拠点として、全ての営みの土台となる府民の皆さまの安心・安全の確保に全力で取り組んでまいります。

一方で、昨年は府立植物園や京都丹後鉄

道・宮津線が100周年を迎えるとともに、国内最大規模の国際スタートアップカンファレンス「IVS」を2年連続で京都で盛大に開催し、次の100年に向けて多様な価値を生み出していく新たな一歩となった一年でもありました。

「万巻の書を読み、万里の道を往く」。これは「最後の文人画家」と称された富岡鉄斎の座右の銘です。書物を読み各地を巡って多くの事象に触れることを実践した彼は、その経験の中から多様な価値を見出しました。都として交流の中心地であった京都には、鉄斎のような人々や文物が行き交い、そうした交流の中から人々の心の発露が文化

という価値となつて、京都から各地へもたらされました。新しい価値は絶え間のない交流から生まれます。文化庁とも手を携えつつ府内各地の多彩な文化の掘り起こしや磨き上げを行い、京都が守ってきた「人のつながり」を大切に、誰もが未来に夢や希望を持てる「あたたかい京都づくり」をさらに進めてまいります。

さあ、いよいよ大阪・関西万博が開幕します。日本における最初の博覧会が1871年にここ京都で開かれて以来、一世紀半。今も昔もイノベーションが京都で生まれ続けているのは、技術の進歩を人々の幸せに結び付ける文化と心根が京都に息づいてい

京都のまちを未来に繋ぐ

あけまして、おめでとうございます。

新たな年の始まりに、皆様の御多幸をお祈りいたします。

市長就任から、間もなく1年が経とうとしています。この間、「市民対話会議」を開催し、様々な立場の皆様と直接、対話するとともに、時間の許す限り京都のまちを歩き、京都に暮らし、働く方々との出会いを通じて、まちのあり様を私なりに見つめ直してきました。

京都の特性とも言える「まち柄」を確認する中で見えてきたのは、京都の課題と大きな可能性です。

地域コミュニティや文化、伝統など、京

都を支えてくださっている担い手の減少

や、就職期や結婚・子育て期の方々の市外流出、一部の観光地での混雑やマナーなどの観光課題、更にはオフィス空間の不足等といったまちの課題を改めて認識しました。

一方で、京都が受け継ぐ文化や価値観を魅力に感じ、多彩な人々が訪れていることや、発展に向けたポテンシャルのあるエリアの存在、そして、まちづくりの現場で活躍する大学生などの若者の姿などに大きな可能性を感じています。京都で育まれてきた自治の伝統と心意気を生かし、まちを次代に繋いでいくためには、人と人との垣根を低くし、多彩な担い手を結び付けていく

ことが必要です。

昨年は、京都市の喫緊の課題である人口流出を抑制するため、若者・子育て世帯の定住を促進する「京都安心すまい応援金」を創設するとともに、観光混雑対策として全国初の「観光特急バス」の運行開始など、これからのまちづくりの芽出しとなる事業を展開しました。

更には、京都の「まち柄」など本質的な価値や強みを継承・発展し、令和9年度までに取り組む政策等をまとめた「新京都戦略(骨子)」をお示したところでです。

今年の干支は乙巳(きのとみ)です。努力を重ねながら物事を安定させていく意味が

京都市長

松井 秀治



込められています。これまでの取組の芽吹きを大きく育てていくため、令和7年度は、新京都戦略に基づき、多彩な人々が集い、誰もが個性を生かして活躍できる、すべての人々に「居場所」と「出番」のある社会の実現に全力で取り組んでまいります。

現在、京都市のまちの未来像となる「長期ビジョン」の策定に向けた取組も進めています。これからの時代を担う若者はもちろんのこと、京都で働き、学び、憩う多様な市民の皆様「自分ごと」として京都の未来を考えていただき、多くの声をつないで未来を構想してまいりますので、是非、皆様の思いをお聞かせください。

新年あけましておめでとーうございます

丹後支部
支部長

久保 祐一



謹んで新年のお喜びを申し上げます。平素よりお世話になっております皆様、厚く御礼申し上げます。

2025年より建築基準法が改正され、いわゆる「4号特例」が廃止となり、木造住宅を中心とした小規模建築物においても、より厳格な構造計算や設計確認が求められるようになり、建築士の責務が一層重要となりました。この改正は、建物の耐震性や安全性をより厳しく管理することで、災害に強い住環境を整備するものです。地震や台風のリスクが高まる中で、こうした動きは持続可能な社会の基盤づくりにも寄与すると感じています。

しかし、地元においては、法改正に伴うコスト増や設計手続きの複雑化に戸惑う声も聞かれます。私たちは、建築士として役割を果たしつつ、地元・丹後の伝統的な建築文化を尊重しながら、高品質な設計を提供することで、地域の皆様に安心して暮らせる空間をお届けしたと考えております。

本年は法改正を契機に、技術力の向上と安全な建築の実現に向けて全力を尽くしてまいります。結びに、本年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

宮津支部
支部長

和田 直之



会員の皆様におかれましては、ご家族お揃いで新年をお迎えになられたことと存じます。平素より支部活動ならびに本部活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨年度の支部活動を振り返りますと、7月と11月に宮津市建築住宅係との共催で建築相談会を実施いたしました。これは、耐震性のない住宅が約2,700戸ある現状を踏まえ、毎年の取り組みとして宮津市役所と協力し進めている重要な事業です。今後は与謝野町や伊根町との連携も視野に入れ、活動の拡充を図る計画です。

また、支部として恒例となっている全国大会への参加ですが、本年は大阪での開催となります。全国の建築士の皆様が活躍する姿に触れる貴重な場として、支部のさらなる活性化につなげていきたいと考えております。

今年の干支は巳年です。巳の特徴である「脱皮を重ねて成長する姿」にちなんで、「復活と再生」の年とし、蛇のように知恵深く粘り強い宮津支部を目指して邁進する所存です。支部役員をはじめ、会員の皆様方の温かいご支援とご協力を、心よりお願い申し上げます。末筆ながら、本年も皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

舞鶴支部
支部長

坂根 功一



会員の皆様におかれましては健康やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は舞鶴支部の活動にご支援・ご協力をいただき誠に有難うございます。

振り返りますと昨年は元日から能登で震度7の大地震が発生し、舞鶴においても一時、津波注意報が発令され正月気分が吹き飛んでしまいました。もしも近隣で大災害が起こった時に、応急危険度判定など、我々「建築士」として出来ることへの準備や緊急連絡網の整備の必要性を改めて認識いたしました。

さて支部長を拝命して早いもので3年目となります。ようやく右と左の区別くらいはつくようになって参りましたので、本年はコロナ禍で希薄になっていった「交流」の部分を中心に考えていきたいと思ひますので、皆様のご協力・ご参加を宜しくお願い申し上げます。今年は巳年です。実は私、年男で還暦を迎えます。蛇は豊穡や金運を司る神様として崇められ、辛抱強く生命力もあると言われております。本年が経済も上向き、皆様方にとって素晴らしい年になりますことを祈念いたしまして年頭の挨拶とさせていただきます。

福知山支部
支部長

立石 一之



皆様には健康やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より建築士会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。2025年も、建築士会は地域社会に根ざした活動を続け、建築業界の発展に貢献するべく尽力してまいります。

さて、昨今の建築界は大きな変革期を迎えています。まず、持続可能な社会への移行が急務となる中、環境負荷の少ない建築技術や材料の開発が進んでいます。特に、カーボンニュートラルを目指す取り組みが注目されており、再生可能エネルギーの利用や、省エネルギー性能の向上が求められています。また、DXデジタルトランスフォーメーション（DX）が建築の現場にも広がり、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）の普及や、AIを活用した設計支援システムなど、新たな技術が導入されています。これにより、設計から施工、維持管理までのプロセスが効率化される一方で、技術の習得や新しい働き方に適応する必要性が高まっています。

さらに、昨今の課題として、職人や技術者不足も深刻化しています。高齢化が進む中、若い人材の育成が急務です。建築士としても、後進の指導や職場環境の改善を通じて、次世代を担う人材を育てていく責任があります。今後の展望として、建築界は「人」と「環境」をより一層重視した方向へ進むと予想されます。人々の暮らしの質を向上させるために、ユニバーサルデザインや、健康に配慮した建物の設計がますます重要になります。また、自然災害の多い日本において、レジリエンスの高い建築物の需要も高まるでしょう。防災・減災に強い建築物の設計や、地域社会と連携した街づくりが求められています。最後に、2025年も建築士会は業界の進歩に貢献し、皆様とともに良い社会を築いていく所存です。本年も変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

綾部支部
支部長

村上 正一



会員の皆様におかれましては、ご家族お揃いで新年をお迎えられたこととお慶び申し上げます。平素は支部活動並びに本部活動にご協力をいただいておりますこと紙面上ではありますがお礼申し上げます。

さて、昨年度の支部活動を振り返りますと、綾部市様のご協力のもと、京都府建築士事務所協会と共催で建築相談会を開催するが定例化してまいりました。また、6月には建築士の日事業として、本年度綾部市建築課が特に力を入れている耐震診断事業に協力すべく「耐震診断・耐震改修」を学ぶ講演会を実施させていただきました。おかげ様で綾部市の耐震診断は補正予算を取るなどして診断件数66件また本格改修工事は16件と非常に多くの市民の方に喜んでいただきました。そして恒例となる建築士会綾部支部と京都府建築士事務所協会北部支部の合同納涼会も開催するなど支部活動は、活性化しつつあります。

今年の干支は巳年です。巳は蛇を指し、古来より知恵や再生、脱皮による変化の象徴とされています。蛇が殻を脱ぎ捨てるように、巳年は「成長」「変化」「新たなスタート」がキーワードになると考えられます。まさしく綾部支部が今年の目標とするものと考えております。支部役員の方や会員の皆様のご協力をお願い申し上げたいと思ひます。結びにあたり、本年も皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に、ご健勝、ご多幸を祈念しまして年頭の挨拶とさせていただきます。

永松 輝



藤森 順



吉田 雄一



原
利
行



德光都妃子



南丹支部は近年会員の減少が著しく、新たな会員の増強が急務となっております。そんな中、南丹支部には幸い京都建築高等学校が、あります。建築大学校は在学中にも

かかわらず年間約200人もの新しい建築士を輩出しており、その中で1割でも建築士会に入会してもらえば大きな会員拡大となります。今までは学生に建築士会の告知や入会勧誘をしてこなかったのですが、学生時に活動を知ってもらって魅力を感じてもらえば、卒業後も京都府内に就職した際には会員として存続してもらえる可能性は高く、長い目でみると会員増強に大きくつながると思われま

幸い支部会員には学校関係者も多数おられ、学生へのアプローチも比較的容易な環境にあります。会費の負担等のハードルをなくするため学生会員のような新たな制度を作ったり、入会の折には青年層となるので青年部と連携して、建築士会活動や事業へ参加してもらったりと魅力あるアプローチができるのではと考えております。これには南丹支部だけではなく、本会の皆様方にもご協力をいただかないと難しい事が多々ありますので、どうか京都府建築士会の未来のために今年からご協力をお願いいたします。

社会は大転換期を迎えています。原因は恐らくインターネットの普及です。大勢と関わっているよう

に錯覚しながらますます人間関係は希薄になり、集まつて事を成そうとする旧世代と、集まらずに美味い部分だけ欲しい新世代の間には深い溝があるような気がしてなりません。匿名で撃ち合いを繰り返し最後はリセットできるバーチャルな関係性は居心地がいい。あらゆる団体がこの泥沼を抜け出そうとしながら苦しんでいる時代だと思ひます。さて私に何ができるのでしょうか。戦争は止まず相変わらず政治は無策で景気は一向に良くなりません。それでも私たちは活動しなければなりません。建築が人間の生活に常にやさしい存在であり続けるためにアクションしなければならぬ。・・・。

時々そんな大それたことを考えたりしながら身の回りのささやかな平和に浸る今日この頃です。楽しい会にしようと楽しくない仕事をこなすつてどうなの？ いやみんなの楽しい顔が見れたらそれでいいんじゃない？ そんなこんなで本年も皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は、支部活動並びに本部活動にご支援、ご協力を賜り御礼申し上げます。昨年度から支部長の大役を仰せつかり、右も左もわからない状況の中スタートしましたが、皆様様の温かいご支援により新年を迎えることができました。

今年は4号特例の廃止、省エネ義務化など法改正がなされる年であり、2月に土木事務所の方に協力をあおいで改正法規の説明会も計画しております。ふるつてご参加の程よろしくお願いいたします

今年も会員の皆様と共に事業に取り組み、活動を行ってまいりたいと思います。支部事業の中で、建築に携わる人同士が話し合い、情報共有しあえる場として活用して頂くことを望んでおります。

建築士会に入つてよかつたと思つて頂ける活動を行うことが会員の拡大にもつながるものだと考えております。

今年は巳年です。変化や成長の年です。柔軟な心と知恵を持って新たな挑戦をしていければと考えております。長きに渡る世界不況の中、明るい未来を生み出すための大きな飛躍の一年となることを願っております。

結びにあたり、本年も皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げると共にご健勝、ご多幸を祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

2025年、皆さまのために私達青年部会ではどんなことで貢献できるでしょうか。

今年の干支は巳年、ヘビの年ですね。建築士としてヘビのライフスタイルを提えてみます。まずヘビは巢をもたない生物で、その日その日の環境に合わせて柔軟に判断して過ごす場所を変えていますつまり定住しないヘビは「常に考え続け、変化する」能力を持っているとも言えます。

さて、昨今の変化の早い社会の中で、個人、会社、団体にとって大切なのは常に考え変化し続けることです。私達のいる建築業界、建築団体で共通して言えることですが、1年前の建築や事業をコピーしているようでは思考停止で全く面白くない。

昨年私が青年部長に就任した際に掲げたテーマ、ケンチクはタノシイを多くの皆さんに届けるために、建築を学ぶ大学生と一緒に学生向け事業を企画したり、毎月の役員会の中でケンチクトークと題して私が好きな建築家について話す機会を設けたりと、例年になりに取り組みも始めました。

今を見極め、先を見据えて、どうしたら自分たちが楽しめるのか何をすれば目の前の誰かに貢献できるのか、そうやって皆で考え続け変化のできる青年部会をつくりますので、今年も引き続きのご支援を宜しくお願い申し上げます。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は、女性部会の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

今年の干支は乙巳（きのとみ）で、実は年女になります。そのような年回りに女性部会の創設40周年を取り仕切ることになり、大変気の引き締まる思いです。今までにこのような役回りの経験がなく至らぬことが多いですが、みなさまにご指導を仰ぎながら1つ1つ丁寧に役目をはたしていきたいと思っていますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

さて、2月9日に、「女性部会創設40周年記念事業」を開催いたします。昨今の社会情勢をみるにつけ、今更「女性」という冠が必要だろうかという問いかけをもつて、トランスジェンダーの今西千尋氏を迎え講演会を開きます。女性会員の人数は、いまだマイノリティですが性別や年代にかかわらず、建築士会の中の「みんなの居場所」になっていければいいなという思いをもって、本年も活動したいと思います。どうぞこれからご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

アムステルダム、プリンストン そしてベルリンへ

江本 弘



えもと・ひろし

建築史家・建築家
明石工業高等専門学校 准教授
専門は近現代建築史

著書『歴史の建設—アメリカ近代建築論壇
とラスキン受容』

共著『建築をあたらしくする言葉』(【歴史】)
訳書『調和にむかって—ル・コルビュジエ
の思想と国立西洋美術館』ほか

明治末東京の 消費文化と「渋い」

いま日本国外で「シブイ (Shibui)」が
ひそかなブームとなっている。このこと
は、この言葉が辿ったおよそ100年にわ
たる受容史が背景にある。日本国外で、借
用語としてその言葉を最初に使ったのは
「機能主義建築理論の父」ルイス・サリヴ
アンだと思し、弟子のフランク・ロイド・
ライトの帝国ホテル (1923年竣工) に
対する賞賛がその目的だった。

しかし、サリヴァンはどのようにこの言
葉を知ったのか。そして、その言葉に対
してなぜ、「考え抜いたことへの」褒美 (the
reward of earnest contemplation) 』
などという、辞書的な意味とは全く異なる
定義を当てはめたのか。これらの基本的な
問いには明確な答えは出ていない。前回
は、ライトの入れ知恵だろう、そしてラ
イトの知識の出所はそのまた弟子の遠藤新
だろう、との推測を示すにとどまった。
「欣求^{きんぐしゅう}精進^{しやうじん}の彼岸^{ひがん}の境地」という、深淵だ
が的外した「渋い」の定義がまず遠藤に
よってなされ、それが「考え抜いたことへ
のご褒美」へと、不自然に英訳された (遠
藤自身によって?) という仮説である。

前回にはまた、この遠藤提唱説の傍証で
あり、かつ新たな謎を呼ぶ事実として、同
じ1920年代半ばごろに、遠藤の同世代
である哲学者、九鬼周造も「渋味」に美
学的な定義を試みていたことを示した (『い
き』の構造』草稿以後)。

遠藤と九鬼。この二人が時を同じくして
同じ言葉に固執した不思議な一致について
その後の調査からもう少し詳しいことが明
らかになった。

東京方言で「瀟洒^{サッパ}シテ雅」(『言海』) 程
度の肯定的意味をもつ「渋い」には、も
とと宗教的あるいは哲学的な含みはなかつ
た。その言葉をとらえて意味を深化させた
遠藤と九鬼は、ともに1880年代末の生
まれである。彼らが明治末から大正初期の
同時期 (一九一〇年前後) に東京帝国大学
に学び、そこでその街の消費文化に触れて
いたということがおそらく重要である。

ちょうどそのころ「渋い」は、20代の青
年向けのポップな言葉として使われるよう
になったと思しい。呉服屋の三越が「デパ
ートメントストア宣言」を行い、日本初の
百貨店となったのは1904年のこと。そ
のPR誌『みつこしタイムス』(1908) の
の売り文句に「渋い」という言葉が頻出
するのである (図1、2)。

ポップなキャッチコピーから 脱装飾の美学用語へ

無論、このPR誌のなかで用いられる「渋
い」は「瀟洒^{サッパ}シテ雅」というくらしいの意味
である。加えてここで特筆すべきなのは、
『みつこしタイムス』のなかでは、この言
葉が図柄、つまり装飾について用いられて
いたこと、特に20代後半の「若奥様方」に
向けて使われていたことである。

つまりそれは、呉服屋を前身とする百貨
店の、直接のターゲット層に向けた言葉だ
った。「茶地へ光琳の千鳥を広東縞にて現
はし其上に芒桔^{すずき}梗^{きやう}等の秋草模様を縫ひ取
りの如くに現はしたる極めて渋きもの」
「広東縞入りの綴縮^{ずいしゆく}緬^{べん}へ蔦模^{つたも}様をあしらひ
たる渋き柄」——。色や図柄のテーマはば
つと見て印象的なものではなく、簡素な繰
り返しのパターンだが、そのなかにもデザ
イン上のアイデアが光っているものが「渋
い」のだということだろう。

「稍^{さう}粋^き」とも同義で使われたこの用語法
(たとえば図2右の綴縮^{ずいしゆく}緬^{べん}丸帯) は、辞書
的には「はででなく落ち着いた趣がある」
『デジタル大辞泉』と定義される、現在
の「渋い」の感覚とも合致しつつも多少の
違和感を覚えるかもしれない。この文脈で

は柄入りが前提であり、無地の「渋い」は
ほぼありえない。

いずれにせよ肯定的な意味での日本語の
「渋い」は、『みつこしタイムス』の刊行あ
たりからよく活字化されるようになったよ
うである。いまだ物証には乏しいが、それ
からの約15年間を、この東京方言が国内に
より広い認知を得、あるいは世界語化され
るようになるまでの前史とみなしておく。
この段階を経て、「渋い」あるいは借用語
の「シブイ」は、帝国ホテル竣工を境に明
確に美学用語化しはじめる。

その新たな現象の一翼を担った遠藤と九
鬼は当時30代半ばであり、それぞれ建築家
や哲学者として立たんとしたキャリア形成
期にあたる。彼らが「渋い」に着目したの
は、これから世間に売って出するための武器
として、若いころによく目にし耳にしたポ
ップなキャッチコピーを自らの学問領域に
引き寄せ、その定義を深化させたというこ
とだろう。

その深化は「渋い」の脱装飾化とも約言
できる。九鬼が『言海』を参照しながら「瀟
洒」や「クスマステイキ (くすみて粋)」と
いう類語の存在に触れなかったことや、遠
藤による高度に宗教的な定義はそのあらわ
れだとみられる。



図1 『みつこしタイムス』第1巻11月号表紙（1908）

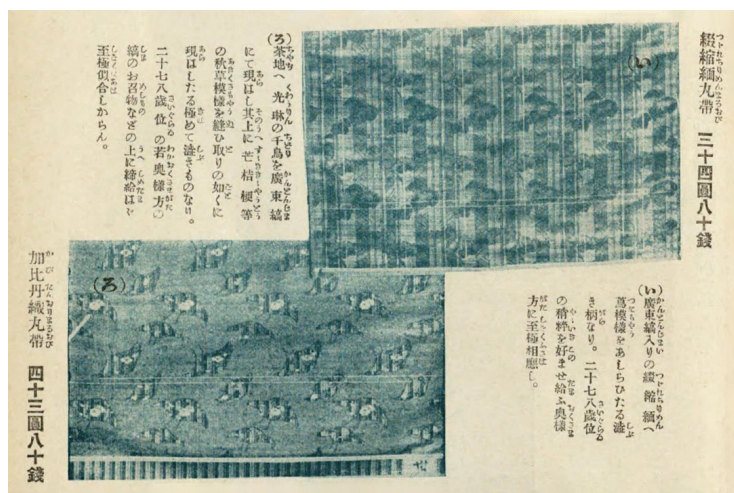


図2 「渋き」柄の宣伝記事

帝国ホテルからはじまる 「シブイ」世界戦略

しかし日本人によるこうした試みにもかかわらず、こと日本語としての「渋い」はその後、美学用語化の道はたどらなかった。対して借用語の「シブイ」は、大正末より急速に美学用語としての地歩を固めていった。

その立役者は外でもないライトである。「シブイ」は、師のサリヴァンによる曖昧な定義の直後から、ライト自身の宣伝戦略のなかで、ただちに美学用語としての定義の洗練に向かっていった。そして1920年代半ばから30年代初頭のわずか5年あまりのあいだに、欧米の新世代建築家たちの広い認知を獲得するまでになったのである。

帝国ホテルは、アメリカ国外にライトが

実現させた最初の大作という意味で、その後の彼が「世界的建築家」としてのキャリアを歩む上での転換点だった。それゆえにライトは、この作品を用いた宣伝戦略に力を注いだ。

それは自身の建築観を世間に再アピールする絶好の機会だった。そこで名コピーライターとしてのライトが、みずからのために白羽の矢を立てたのが「シブイ」だった。日本人以上に日本の美を理解し、かつ、当地に世界的傑作を設計したグローバルな建築家、という自己イメージ。その拡散にとって、外国人に耳新しく、日本語でさえ未定義の曖昧語は、自身の建築観を自由に育てられる未耕地だったのである。

その宣伝戦略はたちまち功を奏した。ライトが育てる「シブイ」は当初より世界の目に触れ、もっぱら彼の定義を通じて理解鑑賞されるようになる。そしてその言葉は、ライトの自己宣伝の枠の外においても、新しい、建築のジャポニスムの促進剤の役割を果たした。

キャリア初期のライトもその影響下にあった絵画・工芸分野のジャポニスムは、20世紀初頭には衰微していた。そこからおよそ20年を経たこの建築のジャポニスムは、欧米のライト・ブームに大きくかわわっている。このときライトが宣伝した「日本」は当時のモダニスト建築家たちの支持するところとなり、それがひいては、第二次世界大戦後、さらには現在にまでいたる影響をのこすこととなるのである。

拒絶反応の先の 神秘と静寂

このライトの世界戦略の嚆矢となったのは、1925年にオランダの前衛美術誌

『ウェンデインヘン』で組まれた特集である。これは「シブイ」に託した彼の建築理念が国際的に広がるきっかけともなった（図3）。もともとオランダの建築界は20世紀初頭からライトに着目していたが、帝国ホテル竣工にともなう第二のライト・ブームは、かつては無かった日本文化受容への積極性において特筆される。

ここでライトは、師のサリヴァンがはじめ用いて広めた「シブイ」をいわば奪いとるかたちで、自己宣伝に役立てた。

前回示した通り、そもそもサリヴァンの帝国ホテル評は、すぐさまオランダの建築系雑誌に紹介されていた。「シブイ」もこのときはじめてオランダの建築界に受容された。

とはいえその言葉がどういう意味なのかはサリヴァンの定義からは判然とせず、さらなる解説が必要な状況ではあった。今回の『ウェンデインヘン』特集はその約1年後の刊行であり、7分冊中の第5巻が、そのような疑問に応ずるがごとの構成とされた。ここでは、サリヴァンの帝国ホテル評全文が再掲され、続く「帝国ホテルにかんする諸事実」と題する無記名の批評文により語義が詳説されている。なおこの匿名記事は、現在はライトの寄稿であることが判明している。

この自作自演による「シブイ」の再定義は大きく二つの部分からなる。というのもライトには、この言葉の中核的な定義を行う前段階として、その言葉を負わせるべき帝国ホテルの、一見して怪異な外観に対する、見手の拒否感を和らげる必要があったのである。それが二段階の定義の第一段階である。ここに該当箇所を和訳（拙訳、以下同）するが、ここでの定義は、読みようによつてはざいふんと言い訳めいてる。



図3『ウェンディンヘン』ライト特集号 (1925)

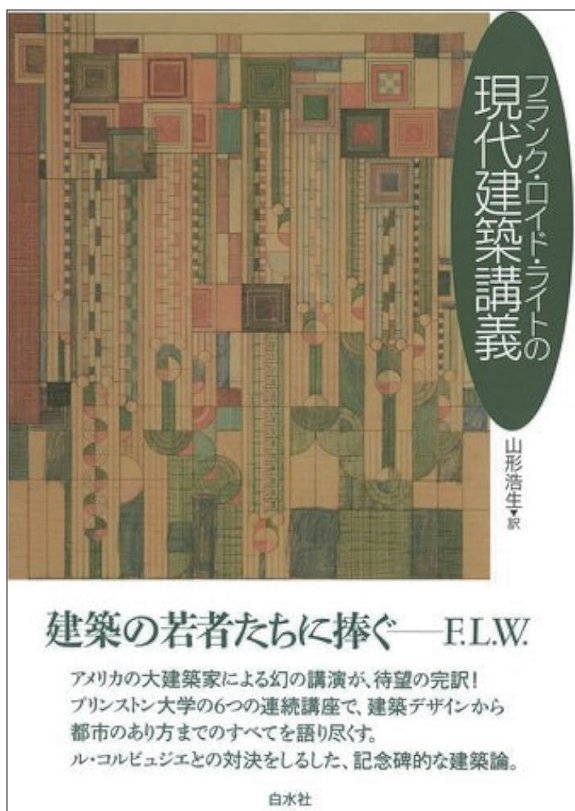


図4『フランク・ロイド・ライトの現代建築講義』(2009)
原書1931年。見返しにライトのマニフェストが原文で掲載されている。

しかし優美^{グレース}と近代性^{モダニティ}を備えつつも、帝国ホテルには原初的なものの力強さがあり、始原を思いおこさせるものがある。帝国ホテルの質は日本人の言う「シブイ」である。最初は嫌いだと思うが、再訪してみると興味引かれ、さらにもう一度訪れたときには目が見はじめる。そして十度目に訪れるころには好きになる。そのような意味の言葉は英語にはない。「シブイ」とは、慣れ親しんではじめて美として自己主張してくる特質を指しているのである。

最初は拒絶反応がでるかもしれない作品にも目を背けないでほしい。もつとじっくり見てほしい。そして何度も訪れれば良いところも見えてくるだろう。そのような哀願が込められた定義である。

またこの記述からは、帝国ホテルは重々しい、奇怪である、といった印象を抱かれることに、ライト自身も竣工当初から自覚的だったことがわかる。ここでの彼は、そうした印象を「優雅さ」や「近代性」へと逸らすレトリック(トリック)の中心に「シ

ブイ」を利用したのだった。「初見にはゴツイが、本質的には優美であり近代的なのだ」——そう伝えたいのである。

しかしその迂遠な語り口は、日本人による「渋い/シブイ」の定義にさえ混乱を生み出したようである。前回紹介した『日本とジャズ』(上野田節男、一九三〇)では、帝国ホテルは重厚さやグロテスクさこそがシブイ、と評されていた。おそらく上野田はこの『ウェンディンヘン』特集にも目を通しており、匿名寄稿者ライトによる定義を、曲解含みで受け売りにしたのだった。

閑話休題。それでは、ライトが語る通りに帝国ホテルの美が「慣れ親しんではじめて自己主張してくる」ものであるとするならば、その美とは一体どういうものなのか。それが二段階の定義の第二段階にして、彼がここで伝えたかった本質である。ライトは続ける(太線部は原文大文字)。

シブイ! ^{ミステリアス}その神秘的で、^{クワイエント}静寂なもの。——東洋の表層の下に潜む、東洋の魂の深奥に宿るもの。——西洋がまだ知らない、はるか昔から培われた経験の果実。アメリカ合衆国がひざまずいて乞い、己を高めるべくその精神を吸い込むべきもの。我々にはこの、現実を探索する謙虚な者たちの財産に匹敵する資質はない。

「神秘的」であり「静寂」なもの。この定義もいまだ不明瞭ではある。しかしそこには、サリヴァンによる「シブイ」の定義の「contemplation」を禅的な「瞑想」の意味へと振りつつ、遠藤による定義——欣求精進の彼岸の境地——で達成されるべき、建築表現の具体に踏み込む意思がある。サリヴァンのいう「ゴ裏美 (Hebdom)」とは、建築に結果としてそなわる神秘性であり静寂である、ということだろう。

これが、以後のライトが突き詰めるほうの「シブイ」の基本義である。これをさらに洗練させたライトの記名による定義は、帝国ホテルに対する「最初の拒絶反応」の

ほとぼりが冷めたころ、じきに行われることとなる。

シブイに託した ハデな再起動

ライトによる「シブイ」の定義の精緻化の過程が、まず師のサリヴァンという親しい他人によって開始され(おそらく、そうなるように仕向け)、次に米国でも日本でもない遠隔地のメディアで、さらに匿名でなされたというところに彼の狡猾さを垣間見る。

この過渡期を経て、「シブイ」の定義がライトのなかで完成を迎えるのは1930年。それは還暦過ぎのライトが建築理論家としていよいよ脂の乗りはじめた時期、相次ぐスキャンダルや家庭問題にけりがつき、米国内での評価も回復してきたころのことである。建築家としては、落水荘(1934—37)などに代表される、第2の黄金期の前夜にあたる。

この転換期を画する一連の事業のひとつが、件の年に名門プリンストン大学に招聘されて行った連続講義と、それと連動した一年半をかけた国際巡回展、そしてその国際巡回展の終わりに位置づく、プリンストン講義をまとめた『モダン・アーキテクチャー』(1931年末)の出版である。それらはまさしく、「世界的建築家」ライトの自己イメージが、母国も含めたパブリック・イメージとして、グローバルな広がりを持ち始めるための重要なスタート地点だった。

ここでライトは満を持して、自身の記名による「シブイ」の定義を印刷にかけた。ここで重要なのは、彼は連続講義用の草稿のほかに、配布用に「有機的建築に関する



図5 『ディー・フォルム』(1930年7月前半号)

現代的諸観念」と題するマニフェスト原稿を準備したことである。このマニフェストは書籍版の見返し部分にも採用されたが、そのなかで彼の「シブイ」論は、クライマックスの重要な位置（裏表紙見返し最上）に置かれた。

このプリンス頓講義は『フランク・ロイド・ライトの現代建築講義』（山形浩生訳、白水社）（図4）として2009年によく邦訳された。興味深いのは、このマニフェスト部分だけは英語原文のまま印刷されているということである。見返し部分はデザインとみなし、原書の美しい装丁に敬意をはらうという意図もあっただろう。

と同時に、その散文詩のようなアフオリズム群は、独自の文体や哲学的内容、使われる言葉の多義性がいまって、翻訳がきわめて困難である。特にライトによる「シブイ」の解説箇所はその極みなのだが、ために筆者による対訳を掲載しておきたい。

(『MODERN CONCEPTS CONCERNING AN ORGANIC ARCHITECTURE』原文抄)

■ SHIBUI IS A JAPANESE WORD FOR DEEP QUIET IN ARCHITECTURE, QUIET REQUIRING STUDIOUS ACQUAINTANCE BEFORE REALIZED.... A MORE SUBTLE EVIDENCE OF PROFOUND FEELING THAN REPOSE ITSELF. THEREIN LIES THE HIGHEST FRUIT OF THE HUMAN SOUL IN ARCHITECTURE BELONGING ESPECIALLY TO ORGANIC ARCHITECTURE.

（日本語試訳）

シブイとは、建築における深い静寂を表す日本語である。この静寂は、その本質を知ろうと努めてはじめて実感される。……それは静けさそのもの以上に、とらえがたい、深遠な感情の証しである。建築に込められた人間の魂の、とりわけ有機的建築に属する最高の果実がそこにはある。

この、より解像度の高い「シブイ」の定義で氣にとめておきたいのは、この言葉が特に建築に関する表現だと断られていることである。日本語における「渋い」は、特別に建築を形容する言葉であったことは、この以前にも以後にも、現在にいたるまでない。対して借用語の「シブイ」は、そのはじまりから建築を形容した。それが、このライトのマニフェストをもって明確に、建築こそを形容する言葉として世界に広まりはじめるのである。しかもそれは、ライトが唱道する「有機的建築」の本質に関係づけられている。

その後のこの認識の伝播のスピードにも驚かされる。このマニフェストがアメリカで出版されたのは、先に示した通り1931年の末のこと。一方、前年5月のプリンス頓講義と踵を接して、ドイツの前衛建築誌『ディー・フォルム』の7月号はすでに、これを英独対訳で掲載している（図5）。ライトはマニフェストの完成とほぼ同時に、現地の編集者にそれを送っていたのである。この根回しの早さは、翌年にベルリンを巡回する個展のための先手だろう。

同時に、それがドイツのモダニスト建築家たちの日本熱の着火剤としても働いたであろうことは、『ディー・フォルム』が、その翌年から日本建築に関する記事をよく掲載するようになることから推し量れる。

「桂離宮＝シブイ」という連想の形成を追いかけるこの連載で、この2回分に関しては桂離宮受容のほうに触れることはほとんどなかった。それもそのはず、桂離宮の建築群が日本の国内外で着目され、注目されるようになるのは1920年代末以降のことだからである。特に国外の建築界で桂離宮の存在が認知されるようになるのは1930年代初頭のことである。

その初期の痕跡をとどめているのがまさしく、ライトのマニフェストを掲載したのちの『ディー・フォルム』誌なのだ。しかしそこでも「シブイ」と桂離宮はまだ交わらず、両者の受容はしばらく平行線を辿ることとなる。そこで今回は、1930年代を舞台に桂離宮受容の視点から世界を見渡し、戦間期の、混乱をきわめた建築のジャポニスムの諸相に補助線を引いていきたい。「シブイ」の国際受容の種を蒔きおえたライトにはここで退場してもらい、次回はおたまたま日本人の論客に焦点をあてる。そしてようやく、舞台に京都が登場する。

（つづく）

※謝辞

百貨店広告の歴史については、ジャポニスム研究者サスキア・トゥーレン氏のご教示を賜った。また、プリンス頓講義実現の時系列や配布物の詳細に関しては、ライト研究者キャサリン・スミス氏のご教示を賜った。記して感謝申し上げます。

2023

3/10

Fri

3/11

Sat

まちづくり委員会

令和4年度 全国まちづくり委員長会議

【実施場所】

東京

【結果報告】

全日程／二日間に参加致しました。初日／10日は、谷中^{やなか}と千住^{せんじゅ}にて「まちづくり活動」をされているそれぞれの施設を、まち歩きしながら見学しました。

谷中は震災を逃れたため、商店街、寺社、住宅等が残っており、昭和の東京にタイム

スリップしたような下町です。

千住は、街並みこそ残っていませんが、黒漆喰外壁（伝統工法）で高い天井の毛糸屋さん等が残っており、当時の商店街の街並みが、推測されました。見学後、講演会場（お茶の水）に戻り、「細街路を味わいながら、安全確保を模索する谷中のまちづくり」、「古民家を活用・発信し、人が集まる谷中のまちづくり」、「空家活用を促進す

る千住のまちづくり」について、それぞれの担当者（東京都建築士会会員）が報告されました。

NPO法人を運営してのまちづくり活動と、事業主としてグループを構成し、空家を利活用し「まち」に溶け込みながら企画・設計・工事を行うまちづくり活動の2件が報告されました。

二日目／11日は、会場を建築会館に移し

伏木道雄

て、防災まちづくり部会・歴史まちづくり部会・景観まちづくり部会・福祉まちづくり部会・街中（空き家）まちづくり部会・木のまちづくり部会の6部会に分かれワークショップ（バズセッション）で意見交換と発表が行われました。その後、まちづくり委員長会議が開催され、全国7ブロック活動報告に参加しました。

2023

3/17

Fri

研修委員会

第2回 すべての建築士のための総合研修

細見建司

【実施場所】

WEB（ZOOM）

【結果報告】

建築士会のミッションである「木の文化を大切にする建築、まちづくりの推進」を受けて、テーマを「木になる未来・持続可能な建物を考える」として、従来、木造ではできなかった規模の建物についての具体的な事例なども交えて、設計と施工の立場で大手ゼネコン、集材材やCLTを使った木造を得意とする施工会社、また環境など

に配慮するという観点から住設メーカーから話をしてもらいました。今後の木造建築の可能性を感じる学びになりました。

今回の設えを受けて、オールWEBと言う形が確立できたと感じます。今回は他府県の離れたところ（群馬県）からの参加も実現できました。しかし、参加周知や広報と言う面で、まだ活発な参加には繋がられていないと感じています。次回はもっと早くより広い形で参加を募る形にしたいと思います。



2023

3/19

Sun

運営委員会

建築まちあるき ガイドツアー

江坂幸典

【実施場所】

京都大学 吉田キャンパス

【結果報告】

広報スタートが遅かったこともあり、なかなか集客ができず、急遽会員も参加可能と変更をしました。

『建築ガイドツアー』第一弾で、もう少し準備に時間をかけられたら良かったと反省です。

当日は天候も良く、参加者の皆さんには気持ち良く京都大学キャンパスを探索していただけたと思います。

講師の富家氏のお話は、歩き出す前に資料を見ながらコース予定と事前の解説があり、見学先々で実物を前にしながらの説明だったので、より理解が深まりました。

営繕組織として始まった京都大学の建築設計。建築部として山本治兵衛、武田五一、大倉三郎とそれぞれの特徴もデザインの変化を丁寧ガイドしていただきました。



2023

3/21

Tue
(祝)

女性部会

藤井厚二・八木邸、枚方宿の町並みと鍵屋資料館 見学会

富山育子

【実施場所】

香里園八木邸、枚方宿鍵屋資料館

【結果報告】

昭和初期のエアコンが普及していなかった時代に様々な工夫により快適な暮らしを追及した建築家「藤井厚二」の設計手法を

学び、環境共生、木の文化の発展と継承をミッションとする私たちの日常業務や社会活動にたいへん参考となりました。

人気の高い建築家であられるため、一般の方も参加され、共に住まいを考える機会となりました。

また、京街道の枚方宿として、まちなみ整備が進むエリアを探索し、街路や公園整備、電線の地中化、町並み景観整備、文化財の保全と活用、まちづくり協議会の設置、定期的なイベント、ガイド組織の常設など、多角的に手法を活用する本気を感じました。

(一社) 京都府建築士会まちづくり委員会
会が取り組んでいる、東海道五十三次のまちづくりのネットワークとして連携ができればと感じました。



東舞鶴

支部だより

舞鶴支部

舞鶴支部 高橋完実

京都府の北東に位置する舞鶴市は、いくつかの地域に分かれ、市の東半分を東舞鶴と呼びます。舞鶴市域は比較的東西に長く、市中央に山地（白鳥峠）があるので、峠を基準に東西を明確に分けることができます。城下町として栄えた西舞鶴とは歴史的な成り立ちが異なります。

■東舞鶴の成り立ち

東舞鶴は明治時代になるまで歴史の表舞台に出てくることは少なく、西舞鶴の田辺城を中心とした田辺藩に属するいくつかの村が点在する農漁村でしたが、1901（明治34）年に海軍舞鶴鎮守府の設置により急速に軍港都市へ発展することになりました。現在のJR東舞鶴駅の北側エリアは1903（明治36）年に碁盤の目状に整備され、住宅だけでなく商店や飲食店が立ち並び、地元住民だけでなく出稼ぎ労働者や軍港関係者で熱気に満ちあふれていたようです。

■街の変遷

鎮守府設置後の東舞鶴は時代と共に変化を遂げます。2度の世界大戦、その間の世界恐慌、軍縮会議等の影響により人口は増減し、戦後は海上自衛隊の基地として一定の規模を維持していますが、軍港都市の趣は色褪せ人口も減少の一途を辿っています。

■街の課題

明治後期に整備された街路は現在の都市交通には合わず、道幅の狭い一方通行の道が多くあります。かつては熱気に溢れた商店の多くは、今はシャッターが閉じられ賑わいはありません。大きな問題として、市街地を南北に分断する形でJR線及び東舞鶴駅が東西に配置されたため、南北の交通が線路により一旦止められる形となっていました。この問題は駅舎及び線路の高架化と市街地整備によりある程度解消されましたが、未だ南北を往来できる幹線道路は未整備のままです。

■街の未来に向かって

舞鶴市は駅周辺に人が集まる街造りを目指しており（舞鶴版コンパクトシティ）、街の規模としても是非推進してほしいと期待しますが、それと共に往時の熱気とは一味違う、住民の想いが必要です。様々なイベントの企画等でその火種が点き始めていると確信し、応援していきたいと思っています。

本のストラクチャー

第9回

【青華―伊東豊雄との対話】

日々本屋を営んでいると、本というのは著者の一方的な表現ではないのだとつくづく思う。

読者は本を買いに来て、立ち読みし、吟味したうえで購入する。その後には短くても数時間、長ければ数週間、時に数ヶ月に及ぶ時間を、その本とともに過ごすことになる。読むときには能動的な意思が必要になり、多少の流し読みはできても、ネット動画を流し見するのとは比較にならないほど高い集中力が求められる。そうした読書の時間と空間があつてはじめて、本というメディアは読者の頭のなかに再現される。その途上に著者はおらず、補足したり、分け入ったりすることはできない。そう考えると、本は読者ありき、読者主体の世界といえるのではないかと思う。

本をつくるとき、とくに初めての著者は、自分の思考、あるいは経験、知恵や情報を定着させることに躍起になる。本は複雑な事象を受け止めてくれる。口頭では語り尽くせない余談から、雑誌や新聞で取捨されてしまう細部までを、その気になれば取ることができてしまう。ただ本という器のおおらかさに甘え、読者を想定しない状態で本がつくられることも少ない。

そうした著者の独りよがり、自己満足、排泄物の垂れ流しにならないように、編集者というものがいる。当事者ではなく第三者、本人ではなく他人として、一緒に本をつくる職業だ。自身を客観視することほど難しいことはない。だからこそ「他者である」という仕事が存在している。編集者は最初の読者となり、曖昧な筋道を明確にしておき、ときに冷徹な取捨選択をおこなう。その先にその著作の本当の魅力が浮かび上がると信じているから。

前置きが長くなったが、私自身も編集者としていくつか本を手がけてきた。『青華―伊東豊雄との対話』は、伊東を父と仰ぐ建築家・大西麻貴が、3年ほどかけて積み重ねた対話をまとめたものだ。音声からの文字起こしまでを大西自身が行っており、私が企画を聞いた時点でほとんどの原稿がかたちになっていた。伊東に対する想いを感じさせる原稿だったのだが、それゆえに野暮ったい言い回し、異口同音、脈絡ない脱線も少なからず残されていた。

私は迷った。読者になにを届けるべきか。この冗長さや読みづらさも、その人らしさと言ってしまうべきかもしれない。面白い部分だけ選び取り、滑らかにつなぎ合わせるのそれはそれほど難しくはない。しかし、それによって、二人の距離感、かけ合いの魅力、漂う空気のようなものまで切り捨てられたら、本の価値は損なわれてしまうかもしれない。

あげく、なるべく削ぎ落としたつもりだ。やりすぎないように心がけながら。一言一句、一段落あるいは一章、そして全体を行ったり来たりしながら、ニュアンスをたしかめた。筋は描けなかったかもしれないが、人物は浮かび上がったのではないかとと思う。そういうふうにして、著者と読者の双方の顔色を伺いながら、今日も私は原稿をまとめていく。

（西尾圭悟 編集者／hoka books店主）



著者：大西麻貴
発行：o+h books、2022

京都・ろじの本屋
hoka books
<https://hokabooks.com/>

令和6年度 専攻建築士制度 登録申請の受付開始

令和6年度 専攻建築士新規・更新申請について

●受付期間 1月6日(月)～2月28日(金)

●申請対象となる建築士

- 【新 規】 1.建築士会のCPDを実施し、過去1年間(2024年1月1日～12月31日)にCPD取得単位数が12単位以上であること
 2.建築士資格取得後の専攻領域の実務経歴年数が5年以上あること
 3.当該領域の「責任ある立場での実務実績」が3件以上あること
- 【更 新】 1.過去5年間(2020年1月1日～2024年12月31日)にCPD取得単位数が60単位以上あること

●申請書の配布 日本建築士会連合会ホームページよりダウンロードしてください。

●受付場所 (一社)京都府建築士会事務局(専攻建築士審査評議会)

●審査・登録手数料

【新 規】

	会 員	非会員
1 領域	17,600円	29,700円
2 領域	28,600円	48,400円
3 領域	39,600円	67,100円

【更 新】

	会 員		非会員
	書類申請	Web申請	
1 領域	13,200円	9,900円	29,700円
2 領域	15,400円	9,900円	31,900円
3 領域	17,600円	9,900円	34,100円

<登録更新をされる皆様へ>

令和元年に専攻建築士に登録された方は登録更新の時期になります。Webから更新申請ができますので、「専攻建築士管理システム登録更新申請マニュアル」をご確認の上「専攻建築士システム」より申請してください。

編集後記

明けましておめでとうございます。いつもの昨日と今日なれど、やはり大晦日と元旦、となると気持ちが新たになります。さて今年はどんな一年になるのだろう、するのだろう。

建築士会の活動の中で、今年度で40周年を迎える女性部会は、2月に記念式典を行います。式典では、講師をお招きしての講演会とパネルディスカッションを準備しており、この講演会は女性部会の「女性」性を考え直すきっかけともなりそうです。すでに女性の名を廃して青年部会として活動している士会も数ある中で、京都もいずれはそうなるのだろうとぼんやりと感じています。

しかし・・・「青年」って、男子を指す言葉であるな、もっと相応しい言葉はないものか。ジェンダーがフリーなのかレスなのニュートラルなのか、カタカナも難しい。ついつい、本質や在りようを考える前に単語や言い回しに引っ掛かりを感じて立ち止まってしまうのは広報編集委員のクセのようなものかもしれません。

顔の見えない黒衣の私たちは、できるだけ言葉を大切にしながら隔月の「京都だより」をお届けしてまいります。本年もよりしくお願いいたします。(松田容子)

社殿は幾度かの天災・人災により破壊・焼失したが、現在の社殿(重要文化財)は、1603(慶長8)年に豊臣秀頼の寄進によって造立された。社殿は全体に西面し、小高い石積みの上に建つ。本殿は三間社流

薬師寺の南側に薬師寺を守護する休ヶ岡八幡宮がある。平安時代の寛平年間(889～898)に別当の榮紹大法師が薬師寺の鎮守として、僧形八幡・神功皇后・中津姫命を宇佐八幡宮から現在地に勧請した。休ヶ岡という地名は、貞観年間(859～877)に奈良大安寺の行教和尚によって八幡大神が大安寺の元岩清水八幡宮に勧請された際、八幡大神が休息された地であることに由来する。

■個展のお知らせです。

『林 伸昭 絵と陶展Ⅶ』

日 時:

2月11日(火・祝)

～16日(日)

12時～18時

(最終日は17時まで)

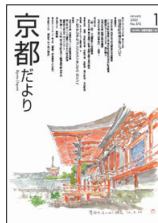
場 所:

ギャラリーきむら

(京都市中京区

寺町通御池下る東側)

TEL 075-241-2659



薬師寺 休ヶ岡八幡宮

やすみがおか

戸田建設(株)大阪支店建築設計室

林 伸昭

造で、両脇に同じ三間社流造の脇殿が接続する。社殿前庭には南北に細長い座小屋が残し、中世に始まった宮座が受け継がれている貴重な事例である。

スケッチは正面右となる脇殿の際に立ち社殿を横から眺め、座小屋の向こうに薬師寺西塔を望むように描いてみた。

表紙のことば

発行人 ● 山領 正 編集委員長 ● 黒木要州
 松田容子 / 森重幸子 / 矢谷明也

編集委員 ● 徳光都妃子 / 西田教子 / 沼田俊之 / 橋本光生 / 堀尾智子 / デザイン ● 松本和子 印刷 ● サンケイデザイン(株)

私の選択は 間違ってたなかった

選んだのは、合格者の50%以上が
進んだ王道ルートでした。

総合資格学院イメージキャラクター
令和4年度 一級建築士試験合格 当学院受講生・俳優
田中 道子さん

令和4年度 一級建築士合格
総合資格のおかげで人生変わった。

京都府&全国 1級建築士合格実績

No.1

令和5年度 1級建築士 学科+設計製図試験

京都府ストレート
合格者占有率

京都府ストレート合格者 28名中 /
当学院当年度受講生 18名

64.3%

平成26～令和5年度 1級建築士 設計製図試験

全国 10年間
合格者占有率

全国合格者合計 36,470名中 /
当学院受講生 19,984名

54.8%

★学科・製図ストレート合格者とは、令和5年度1級建築士学科試験に合格し、令和5年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。
※京都府ストレート合格者数・全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。(令和5年12月25日現在)



総合資格学院

スクールサイト

www.shikaku.co.jp

総合資格 検索

コーポレートサイト

www.sogoshikaku.co.jp

建設業界・資格のお役立ち情報配信中 X ⇒ @shikaku_sogo LINE ⇒ 「総合資格学院」 Instagram ⇒ 「sogoshikaku_official」

1級・2級 建築士

構造設計1級建築士
設備設計1級建築士

建築設備士

1級
管工事施工管理技士

1級・2級
建築施工管理技士

1級・2級
土木施工管理技士

宅地建物取引士

インテリア
コーディネーター

賃貸不動産
経営管理士

京都校

京都市下京区四条通西洞院東入郭巨山町
18番地 ヒラオカビル 6F

TEL.075-253-0481

- 京都府知事指定 民間確認検査機関 ● 近畿地方整備局長登録 住宅性能評価機関
- 近畿地方整備局長登録 登録建築物エネルギー消費性能判定機関



KYOTO ORGANIZATION OF CONFIRMATION & INSPECTION

株式会社 京都確認検査機構

Kind(親切) Open(明快) Certain(確実) Immediate(迅速)

■業務内容:

- 建築確認(事前審査有)・中間検査・完了検査
- 住宅性能評価《設計評価・建設評価》
- 住宅金融支援機構《フラット35(適合証明業務)》
- 住宅瑕疵担保保険取扱《まもりすまい・JIO・あんしん保険》
- 長期優良住宅建築計画(技術的審査)
- 低炭素建築物新築等計画(技術的審査)
- 建築物エネルギー消費性能確保計画(省エネ適合性判定)

■業務区域: 京都府全域

■手数料: 当社ホームページをご覧ください。窓口で配布の料金表をご覧ください。

- 納入は当社受付窓口または銀行振込で。

■営業時間・休業日

- ◆ 営業時間 午前9:00～午後5:30

- ◆ 休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・お盆

(年末年始・お盆については事前にホームページなどでお知らせいたします)

〒604-0931

京都市中京区二条通寺町東入榎木町82
宮崎ビル4階

● ホームページ <http://koci.co.jp/>
● Eメール sinsa@koci.co.jp

TEL: 075-256-8980

075-256-8981

075-256-8982

075-256-8984

FAX: 075-256-8985

075-256-8986

審査部

検査部

構造部

評価部

審査・構造部

検査・評価部

～ご利用をお待ちしております～

契約駐車場(新堀木町沿コインパーキング・市営御池
地下駐車場)については駐車券を配布しております。

